

令和7年度 浜松市立和田東小学校 学校評価報告書

1 自己評価

【2学期 学校評価アンケート 結果】

にこにこ思いやる（徳） ※よくできている、大体できている の割合

① だれにでも明るいあいさつをしている 目標値 90%

1・2年	3～6年	保護者	教職員
86.6%	87.0%	81.7%	82.4%

② 周りの人にあたかな態度で接し、助け合おうとしている。目標値 90%

1・2年	3～6年	保護者	教職員
93.7%	86.9%	92.2%	100%

③ 自分のよさが分かり、集団をよりよくしようとしている。目標値 85%

1・2年	3～6年	保護者	教職員
86.4%	76.2%	81.9%	88.2%

ぴんぴんきたえる（体）

① 自分の目標に向かって粘り強く運動している 目標値 85%

1・2年	3～6年	保護者	教職員
90.5%	80.7%	72.6%	76.5%

② 病気の予防に努め、健康に気を付けながら生活している。目標値 85%

1・2年	3～6年	保護者	教職員
91.7%	82.7%	93.2%	88.2%

③ 危険を予知し、安全な生活に心掛けている。目標値 85%

1・2年	3～6年	保護者	教職員
88.7%	87.9%	84.0%	29.4%

こつこつ学ぶ（知）

① 基本的な学習習慣を身に付けている。 目標値 80%

1・2年	3～6年	保護者	教職員
87.2%	85.5%	79.7%	62.5%

② 既習を生かして粘り強く課題解決に取り組んでいる。目標値 80%

1・2年	3～6年	保護者	教職員
82.5%	81.3%	70.0%	68.8%

③ 学び方を学んだり、交流を通して考えを深めたりしている。目標値 80%

1・2年	3～6年	保護者	教職員
91.9%	91.9%	72.0%	75.0%

この結果をもとに、学校職員で Keep…続けたいこと、Problem…課題、Try…挑戦したいことについて話し合いをした。

<豊かな心（にこにこ思いやる）> ○Keep ▲Problem ★Try □その他

○委員会による「あいさつ運動」の放送は、効果的だった。

○（心の日などで）自分のよいところをもっと知ってほしい。→★学校全体でやってみたい！

○助け合うこと、優しく接することができる子が多い。

▲朝だけでなく日中の「こんにちは」や会釈ができるようにしたい。

▲言葉遣いが直らない。

★あいさつ運動のやり方をさらに工夫したい。（全校でやる、高学年から広げるなど）

□あいさつのランドデザイン目標値…85%でもよいかもしれない。

<健やかな体（ぴんぴんきたえる）>

- 体育では、自分の単元目標をワークシートに記入してから主運動を行うようにした。
- 清潔チェックのミニ賞状は効果あったと思う。保健委員会に続けてほしい。
- 運動場で遊ぶ場所を図に示し、区切ったのがよかった。（安全面や規範意識の向上）
- 担任が下校時に昇降口まで付き添うことで、廊下歩行が多少よくなった。
- ▲安全に対する自己評価が高い…★廊下歩行の様子を動画に撮り、子どもたちに見せるなどすることで客観的に自分たちの行動をとらえられるようにしたい。
- ▲体育では、自分の単元目標を立てても、それに向かって思考している児童が少ない。
- ★竹馬やフラフープなど、休み時間に使えるようにし、遊びの選択肢を増やしたい。（遊びの分散によるけが防止にもつながる）

<確かな学力（こつこつ学ば）>

- 基礎基本の定着（漢字、計算、ひらがなカタカナ）に計画的に取り組めた。
- ▲粘り強く課題解決…課題設定が難しい。
- ▲漢字の定着が課題である。★漢字学習の取り組み方を工夫したい。
- ★自分で家庭学習を工夫したり、計画を立てたりする力をつけたい。
- ★MIM（低学年を中心とした読みの指導モデル）…夏休み前に親子学習会をしてみたい。
- ★こつこつ遊び（学校で宿題をみてもらおう！異学年で教え合い）
- ★こつこつタイムの活用（音読の日…音読の動画を撮って、音読の状況を確認したい。）
- ★週末読書のすゝめ（より読書が広がるような取組を工夫したい。）
- ★子ども参観会【子供同士で授業を見合う活動】（異学年・同学年）をやってみたい。
〔内容例：リコーダー、書写、外国語など〕

2 学校関係者評価

2月18日(水)に開催した学校関係者評価委員会(学校運営協議会)において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは、以下のような意見があがった

(安全意識の向上について)

- ・自転車の乗り方が危ないのはよく見る。保護者がしっかりと指導しないといけない。(杉山委員)
- ・登下校時、子供たちは危険だという認識がないように思う。家庭で教えないといけない。(渡瀬委員)
- ・自転車専用道路はほとんどない。ハード面を整えるよう尽力したい。(小出委員)
- ・子供は危険なことが楽しいようだ。昔は交通安全教室で車にひかれた人形が飛んでいったが、そのようなことがあると映像よりは印象深いのではないか。(芥田委員)
- ・自転車について学校のルールはないのか。(渡瀬委員)
- ・今は自転車で出かけていい範囲とかは決めていない。保護者の考え方による。(教頭)
- ・家庭でしっかり指導しないといけない。(渡瀬委員)
- ・ヘルメットをかぶっていないとこうなるよ、と教えることは必要。(鳥居委員)
- ・児童会で走り回る子に「危ないよ」と言っても通じない。「逮捕されちゃうよ」と言っている。ヘルメットしていない子供の保護者に注意したが、あまり気にしていないようだった。(佐知子委員)
- ・廊下歩行も危ない状況になっている。(教頭)
- ・校内では高学年が中小学年に言うと効果があるのではないか。外部の方から通報があったら、その日うちに放送等で伝えるのがいい。(中村委員)
- ・安全な環境整備については、行政に働きかけていく。(校長)

(いじめ防止対策について)

- ・ほんの小さなことも対応してくれている。子供がアンケートに書けないことがあるかもしれない。(芥田委員)
- ・アンケートで把握できればいいが、出てこないケースがあるのではないかと。解決していないこともあるかもしれない。また、いじめをいいことだというわけではないが、いじめられていた経験が成長につながっていることがある。(杉山委員)
- ・遊びに誘われなかっただけで傷つく子がいる。もう少し子ども自身も強くなってほしい。(佐知子委員)
- ・友達との距離を取ろうとする子もいる。(渡瀬委員)
- ・職員は、子供たちをよく見ている。国で決めたいじめの定義に基づいて小さな事例にも対応をしているが、子供はいじめのつもりでやっているのではないことが多いため、誤解を解くようにしている。(校長)

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

(安全意識の向上について)

- ・学校経営目標の重点として「にこにこ・ぴんぴん・こつこつ」の3つの側面から、数値目標を定めて改善を進めているが、来年度は、低・中・高学年に分けて、より具体的な目標を設定した。
 - 危険を予測し、安全な生活を心掛ける (数値目標 85%)
 - (低学年) 事故やけがをしないように、安全に過ごしている。
 - (中学年) 危ない場所や危ない行動に気を付けて、安全に生活している。
 - (高学年) 危険な場면을意識して、安全に気を付けて生活している。

(いじめ防止対策について)

- ・学校のいじめ防止基本方針やいじめ・問題行動初期対応フローについて、全職員で今一度確認を行い、未然防止のためにできること、いじめかな?と感じた時点から組織で対応していくことなどを共通理解する。
- ・一方で、「大人が解決してくれた」ではなく、子ども自身が乗り越えられたと感じられる支援のあり方についても考えていきたい。